

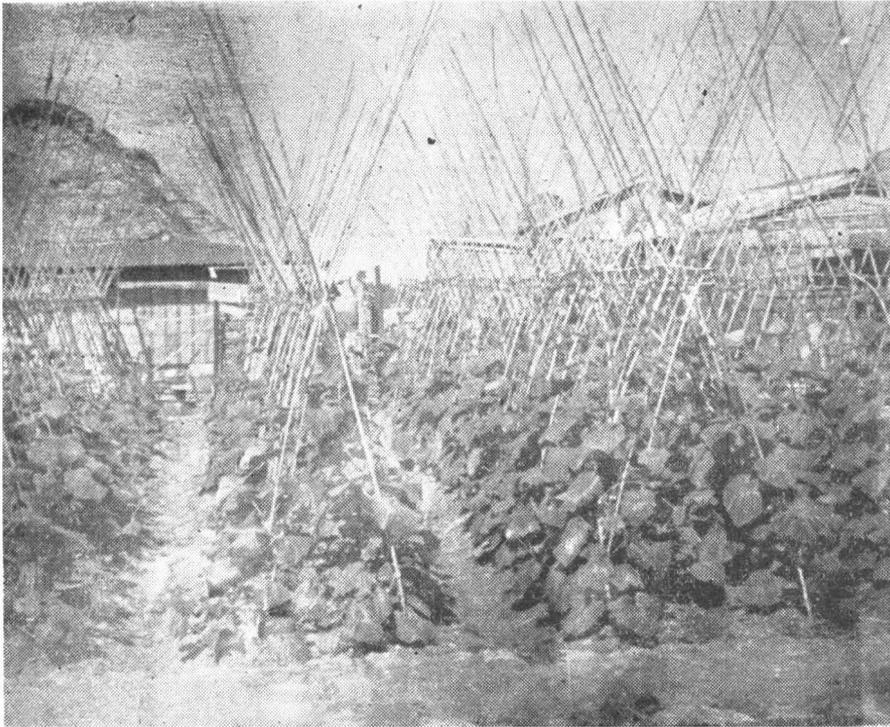


琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	瓜類の栽培技術 (1)
Author(s)	友寄, 長重
Citation	琉大農家便り(16): 2-3
Issue Date	1957-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19647
Rights	

瓜類の栽培技術 (一)



【写真説明】首新垣恒次氏の
余播き栽培胡瓜。品種は青葉及
び若葉、果は三、四寸で収穫さ
れる特にアブラムシに注意して
硫酸ニコチン撒布をする。

瓜類は根が横繁性であり、コル
ク化するのが早く、育苗、移植栽
培が困難で、相当の技術を必要と
する。しかし早熟栽培により節間
の長い時に収穫出荷するためには
矢張り温床内での育苗は必要であ
るが、普通農家では温床設備がな
い故、直播栽培について述べる事
にする。

一、胡瓜

1 品種の選択 胡瓜の品種を根
本から種解して経営に合理的な品
種を入れるためには、各品種の気
候生態性(日の長さ、気候等の変
化)ともなつて現われる色々の習
性)を知つて需翠者の嗜好を調べ
その好みに合った形質(胡瓜の果
の色や形、大きさ等)をそなえて
いる品種を選定しなければならな
い。

胡瓜は日の長さによつて節成性の
現われ方が変化するが品種によつ
てその現われ方に違いがあり、次

のように分けられる。

① 長日よりも短日になる程、節成りになるが極端な節成り
になる事がない品種(例)落合節成り促成栽培用に適す。

② 短日に於いて節成り性を現わすが、長日では飛成りにな
る品種(例)相模半白節成り大仙節成り早熟栽培用

③ 短日でも長日でも節成り性を現わす品種(例)刈羽節
成り加賀節成り、渡辺八重成り早熟、直播兼用

④ 短日でも長日でも飛成りになる品種(例)霜しらす、余
蒔地這、交刈三尺一直播栽培用

比較的早い収穫をねらう場合には、やはり短日性の節成種を早
播きし、これにパラフィン紙或はビニールをかけるとよい。だ
んだん播種期が遅くなるにつれて、暑さに強く日長時間に対
して鈍感な品種が選ばれる。この場合支柱を立てるか這わせるか
という事が問題になる。這い胡瓜は比較的強いので真夏の収穫
用として栽培するにはよい。真夏の支柱立て栽培はよほど土
質が良く、乾燥しない所でないとなつて成功しない。又この場合ネマ
トダのいる畑では極めて成績が悪い。

2 果の発育と収穫 胡瓜の果の発育速度は極めて早い。し
かし場合によつてその速度にはすい分差がある。

日本では地方により、時期により一定の好みがあり、決して
胡瓜の成熟期、或いは発育の最終の大きさを収穫されるもので
はない。

発育のよい畑では毎日収穫しないと大きさが揃わない事にな
るが、発育不良の畑では、二、三日に一回の収穫でもよい同じ
大きさでも収穫迄の日数は、条件によりかなり異なるものであつ
て、若いものほど品質がよい。又同じ大きさでも若い肉とる場
合は、それだけ株の負担は少くすむわけである。

果の発育速度が、早に對する栄養供給如何によるとすると、
当然葉の働きによつて分配される事になる。すなわち葉が多け
れば明らかに果の発育も早いわけであり、葉面積の多い、栄養
供給力の豊かな場合と、そうでない場合とは、開花後収穫迄
の日数が相当ちがうことになる。このことは果実の品質、単価
にも影響するし、又株の疲れ、収穫量にも影響する事になる。

それで適理、多肥主義の栽培を考へなければならず、徹底的な薬剤撒布が要求されることになる。

果の収穫は市場の要求する一定の大きさで行われるのがよいがある場合、株の負担を出来るだけ軽減するため、要求以下の大きさでとる事も又やむを得ない事である。株の負担力の充分でない幼少な内はなるべく株に負担をかけないことが、後の生育のために非常によく、主枝、側枝の生育がよく、雌花も多く総収量も多くなる。

3 蔓の処理 早熟或は早期の直播栽培では大体即成り性のものを選ぶ。此の場合には支柱立てをし、品種がよく、栽培も適切で節成り性が強く出ている場合には、大体親蔓で充分の収量が上る。主枝で充分になつておりながら、しかも子蔓の発生がよいのが理想的である。子蔓は二、三節で摘心し、各子蔓に一、二花づつつけるようにする。すなわち子蔓の基部に雌化がついておれば、その上葉を残して摘心し、収穫が終つた子蔓は漸次切り捨ててよい。

大型の這い胡瓜では、親蔓が節節に伸びた所で摘心し、蔓を四、五本ださせて之にならせる。細い小型の果実がたくさんなるような這い胡瓜では畦の一端に直播して親蔓を倒して誘引する。この親蔓が次畦の先端に達したところで摘心し、数多くの子蔓をださせ、これにもならせる様にする。

4 薬剤撒布 胡瓜を栽培すると必ずといつてよい程ペト病の害を被る。比較的風通しがよく、畑に湿気が多く、しかも半日陰になつて居るような所ではペト病の被害は少い。又高温期になると発生は少くなる。ペト病の防除はホルダー液でも他の銅製剤でもよいが、薬の種類や薬剤撒布の方法よりも撒布の回数が問題となる。ペト病の被害を少なくする為にはどうしても薬剤撒布の回数を多くしなければならぬ。石灰の濃いホルダー液をかけると薬の生理作用を害し、蔓の生育が止る。理想的には五斗ないし六斗式、石灰半量ないし三分一量、すなわち五斗ないし六斗に対し六〇匁ないし八〇匁のホルダー液をつくり、一週に一回は必ずかける様にしたい。この間に雨があれば、雨の侵襲中に又薬剤をかける。蔓の伸長が大体止つてきたら

ならば、四斗式位の等量ホルダー液を噴霧にかけておくといふ。

ペト病はこのような方法でかなりの確に防ぐ事が出来る。このような薬剤撒布は努力が加かつて到底出来ないという人もある。しかし胡瓜は元来労力がかかる作物であつて、労力が足らない場合は面積を狭めて薬剤に栽培すべきである。

直播き胡瓜の場合にはウリバエの被害を被る。ウリバエはD・T・B.H.でよく駆除することが出来るが、これらは瓜類に對しては薬害を起すので、ひ酸鹼をかけて、駆除するのが安全である。

其の他の瓜類の害虫として大きなものはアブラムシである。アブラムシは放任しておく、芽の先端などに大発生して、生育を止めてしまふ。大発生をする前に注意して徹底的に駆除を行う。全圃場に発生しているならば、ホルダー液散布に際してその千分の一位の硫酸ニコチンを入れる。又発生が局所的の場合、発生している株だけを硫酸ニコチン千倍液などで入念に洗い落すようにする。

5 ネマトーダの問題、直播した白菜や大根の生育が非常に不揃いになり、或いは胡瓜やトマトがなかなか伸びないで、葉がちぢんでくるような場合に、根を丁寧に掘つてみると、これに小さな粒々が沢山ついている場合がある。これはネマトーダの被害である。ネマトーダは土の中にある小さな虫で、雌が根に寄生して、根の機能を弱らし、作物に被害を与えている。このような虫は二、三年野菜作りを止めてクワ本科の麦やとうもろこしを作るのがよい。無理にこれらの畑に、菜を作るならば、温度が高いとネマトーダが活躍するから、なるべく暖かい内は直播をしないように、作付けを上天する必要がある。又なるべく堆肥を多用し、根を充分張らせて、生育を盛んにするようにする。

ネマトーダを積極的に駆除するにはD.D.という特效薬がある。然しこれはまた薬価が高く、反当二千円程度を要する。非常に集約栽培地帯では費用化しているが、今の所経営的に之をとり入れる事は困難である。薬価が安くなつて来るか或は安価な新しい薬が出来れば普通農家も採用する事が出来るであらう。

今アメリカで新しい薬品が製造されているが、また薬害に關して実験の段階にあり、殆大でも実験している。

ネマトーダの害を少なくする為には、堆肥の多用と輪作の合理化の外に深く天施返しをする事も効果がある。苗木などにネマトーダが繁殖する場合にはクロロピクリンで駆除出来るし、又少量の土であるならば水の盆に浸けておけばネマトーダを殺すことが出来ること云われる。同じ畑でネマトーダは乾燥する畑にひどく、湿地には少ない。

6 栽培要項 次に経済局発行の蔬菜栽培要項より引用しておかう。

品種、地遣、立秋、宮の陣、四葉、播種適期、三月上旬、九月上旬、播種期圃二上二三下、八上九下、畦巾四尺、株間三尺、反当本数九〇〇本、反当播種量八合、反当施肥量、基肥として堆肥六百貫、硫酸二〇貫、過石三貫、塩化加里八貫、追肥として硫酸二貫、過石六貫、塩化加里四貫を四回に分施、収穫始め迄の日数七〇日、反当収量三〇〇一五〇貫、直播の場合は一株四、五粒宛まぐ、一株一本とする。床播きは二×一寸の点播、本葉の出始める頃假植、本葉三、四枚の時定植、敷早をなす事、秋作は防風設備をなすこと。以上は這い胡瓜の早熟普通及び余播き栽培の要項である。

(友 寄 長 重)

